

第二十二回本郷ふじやま公園古民家歴史部会歴史散策(東海道)

平成19年8月2日(木) JR戸塚駅改札前 10時00分集合同刻出発

当日6時25分のNHK天気予報降雨率50%以上の時は翌週9日(木)に順延します。

行程; JR「戸塚駅」改札前集合→バス移動「ポーラ前」→19王子神社→20大山前不動・大山道道標→21護良親王首洗井戸→22鎌倉ハム発祥斎藤家→23五太夫橋→24宝蔵院→善了寺→古東海道→「戸塚駅」。

一口メモ

V戸塚宿へ

19・王子神社

祭神、大塔宮護良親王=材木ノミヅリガシノリ=ミヨシノリとも、(1308~35)、僧侶となり大塔宮と称し天台宗の最高位、建武の中興(1334)するも尊氏と対立鎌倉宮本殿裏に幽閉中、尊氏の弟直義によって殺害される、太平記の悲劇のヒーローでした。

後醍醐天皇の皇子護良親王の御首が本殿の下に埋められたと伝えられる。

参考; 幽閉されたのは理智光寺で、弑殺者(サツ・君主、父など殺すこと)は下僕の義博と説明が、四つ杭の石碑にある。

豊受大神宮・子の神社(柏尾最古とある)・柏尾稲荷(穴守稲荷の末社)がある。

社殿脇に数日前に祭事が有ったかテントとテーブルが残されその前に「大和國十津川郷谷瀬□所」の比較的新しい木柱が建ててあった。□は講と読むのか、今も息づく南朝の関連と共に調査中。

谷瀬は奈良県吉野郡十津川村の十津川西岸にあり、大塔村境から5km程下流に当たります。

20・大山不動前・大山道・不動堂・柏尾大山道

ここは柏尾村から用田、戸田、上粕屋を経て大山へ行く道の入口。江戸時代、富士信仰と共に大山信仰盛んになり、関東を中心に、静岡、山梨、長野、新潟など、広く大山講が組織され、かつては、大山道の分岐点で、東海道に一の鳥居がたっていて「阿夫利神社」の扁額がかかっていた。

不動堂

かつては、東海道筋にありました。寛文7年(1667)の造立と言う、「扁額」と「是より大山道」と掘られた台座の上に不動明王が乗っている道標が収められている。

大山道

大山詣での道で、大山から放射線状に各地に広がっていた。中でも、矢倉沢往還(江戸~青山~二子の渡し~厚木~伊勢原~大山)と田村通大山道(羽鳥村・四ツ谷~一之宮~田村の渡し~大山)が特に有名だ。その他、八王子・府中・平塚・小田原などにも大山道と呼ばれる道があった。

モチの木

樹齢300年(県指定天然記念物)・樹高19m・雌株は胸高周囲2.4m、根回り3.1m・雄株は胸高周囲3.1m、根回り4.9m東海道筋相模のモチとして親しまれている。

モチノキの脇に角柱道標右三浦丘陵左多摩丘陵とあります。

21・護良(ミヨシ)親王首洗井戸

晒し首となった親王の御首を側女が盗み取り当地の南朝方の豪族斎藤氏に救いを求め難を逃れてその後、この井戸で首を洗い清め、葬ったと言う。歌碑「みしるしを洗いし井戸とつたえきく杉はかかれても名はのこるらん」。最近この首は前記王子社の社殿の下に葬ったのではないかと推測されています。

22・鎌倉ハム発祥の地、斎藤家。

立派な門構えで、レンガ造りの倉庫風の建物があるが、斎藤家です。先祖、角次は、明治20年他の仲間とハム製造工場を作り、本格的なハムの製造を始めた。此が日本人による最初のハム製造で、サンドウィッチ用でした。明治10年(1877)年代にイギリス人ウィリアム・カーチスが柏尾村に外国人専用のホテルを建て宿泊者に提供するハムを作り始めた。角次は、はじめ牧場や牛や豚の飼育係として雇われましたが、カーチス夫人の信用を得て、作業場への出入りを許され、ハム製造法を学んだと言う。角次はこのほかにも、水田の裏作に麦・菜類・キャベツ、トマト、ナスなどの栽培を始めた。明治30年頃鎌倉ハム量産されるようになり、上柏尾には斎藤商会の他、益田商会、富岡商会などが出来ましたが、いずれも「鎌倉ハム」を名乗ったそうです。中国へも輸出され、昭和10年(1935)頃には、鎌倉ハムは全盛期を迎え、全国ハム生産量の50%以上を占めたと言う。

23・五太夫橋(ゴダゴ)

土橋、長2間、幅2間半小田原北条氏の家臣であった石巻五太夫が、天正18年(1589)北条氏滅亡後に江戸へ移る徳川家康をこの当りで出迎えた事から名付けられたと伝えられます。

24・宝蔵院

古義真言宗・東峯山金剛寺・本尊、不動明・木食観正(モクジ 観ソウ) 碑、徳本上人名号碑。室町時代後期、天文16年(1547)に中興された。

扇供養；6月第一日曜日に、舞踊会の人々が集まり、古扇に感謝し、芸道精進を祈って法要が行われる。

徳本上人の六字名号碑；江戸後期の僧侶で徳本念仏の首唱者。「南無阿弥陀仏」の六字名号を唱えれば極楽往生するという教えで、毎日行う日課念仏の勧めだった。信者になって、1日何度唱えるかを自己申告すれば、唱える回数によって種々の名号書が授けられたと言う。特に大奥女中の帰依多く幕末不安の世相を背景に熱狂的信者を集めたと言う。

ここに角柱道標あり「左かまくら道」脇に「延寶二年甲寅四月」(1647)と読める、昔は吉田橋の袂「こめや」の前川筋に建っていたものです。

第二十二回行程案内図

月 日 ()

戸塚宿へ「信濃坂下～宝蔵院」

